

女連盟だより

第9号

平成元年11月1日

発行 静岡県家庭婦人バレーボール連盟事務局 〒426-02 藤枝市時ヶ谷387 ☎0546-43-0791

会長 綾部 義彦

大根足、かもしかの足、象の足、ゴボ
ー足、人参足、千差万別の我々の足は生
まれながらにして今日まで五体を支えて
きてくれた、まさに黄金の足です。

バレーボールも風船をふくらましたよ
うなブルマーからショートパンツに、一
面においては衆人の目を引き付けるよ
うなジョイナススタイルとかエアロビッ
クスタイルが時代の波と共に生まれてき
ました。

でも婦人の場合、今のスタイルが適切

黄金の脚

だと思いません。(全日本女子が
一度だけ新スタイルで登場し、
すぐ元にもどしたように)連盟
傘下の諸大会は故あって皆と同
一服装が出来ない人は了解済
みのようなもので、何等不思議と
も感じられなくなりました。

最近、未登録、婦人バレーで
役員が各チームのリーダーを集
め、服装の点を指導している姿
を見て喜ばしく思うと共に、い
つも私がこの大会でトレーニングウエ
アのことを話すのは、皆と同じ戦うべき服
装であってほしいことに外なく、必ず戦
力の差が三点乃至五点生ずること断言し
てはばかりません。

先般行われた未登録、婦人の大会で東
・中・西へ出掛けました。私のチェック
は各地区共半数がトレパン、半数がショ
ート(内二、三のチーム短パン)でした。
来年は大分変わってくるでしょう。
戦う服装は礼儀であり、チームの意志
の結集であると思います。

さあ、試合開始のホイッスルが鳴った。
エンドラインに整列した貴女のチームの
足を見なさい。昔のSKDやNDCのラ
インダンスの作られた足とは違いますぞ。
これぞ一点をたたき出す、黄金の脚なの
です。

理事長 中西 満子

二十五年前の東京オリンピックを機に
自然発生的に芽吹いたママさんバレーボ
ール。

第1回シニア大会に思う

昭和から平成へと元号が移った本年度
は、全国家庭婦人バレーボール連盟は創
立十周年、静岡県家庭婦人バレー
ボール連盟は創立十五周年の
記念すべき年となりました。新
たな気持で、楽しめる生涯スポ
ーツとしてのママさんバレーの
普及と資質向上に意欲を燃やし
た運営に、今、全国各地の家庭
婦人連盟は努力しております。
当連盟としましては年度当初
計画いたしました第一回シニア
大会を八月二十七日(日)に、四十
五才以上の参加者を集めて開催
いたしました。豪雨に近い悪天
候をもものともせず、永年バレー

ボールに接し、チームを支えてきたリ
ーダー達だけあって、会場の静岡市長田体
育館へは定刻には申込者八十一名全員が
集合、楽しく、レベルの高い?好試合が
繰りひろげられました。下田球友会の人
達は前日から一泊しての参加、また、日
頃顔見知りではあっても、話を交したこ

ともない人々が同じチームで励まし合い、
ころんだり、ぶつかったり、帰りには、
けんみんテレビ様よりご好意の大きな袋
に入った参加賞をいただき、綾部会長よ
り素晴らしい色紙を個人賞としてプレゼ
ントされた人々、それぞれ来年はまた多
くの友だちを誘って是非参加したいを合
言葉に大会を終了いたしました。

将来への方向づけの当大会を実施でき
ほんとうに嬉しく思うと共に、来年は本
年以上に喜んでもらえる大会となるよう
内容の検討をしていきたいと思えます。

全国家庭婦人連盟主催の第一回シニア大会
(五十歳以上)も十一月十六・十七日に
東京都駒沢体育館他で開催され、本年度
は役員チームが視察を兼ねて参加させて
いただきます。

第二回大会以降は予選を計画しており
ます。第二回大会はすでに四国開催が決
定されており、県予選の持ち方について
は、平成二年度の総会の折に報告できる
よう検討していきたいと思っております。

全額自己負担とは少々きびしく思いま
すが、五十代になって全国大会に出場し、
他県の多くの人々と交流を深められるの
もママさんバレー愛好者の幸せであり、
世界に誇れる只一つしかない全国のママ
さんバレーボールの組織を支えている一
人であることをお互いに自覚し、更に手
を結んでいきたいものです。

シニア大会参加資格のある皆さん方が
如何にママさんバレーに接していくかお
互いに話し合い、実践していくことによ
り若いママさん達のよい道しるべとなり、
連盟の充実、発展のために今後共お力添
えを希望いたします。

明るく、楽しく、美しく

シニア大会

(親睦・活力・団結)

期日 平成元年八月二十七日(日)
会場 静岡市長田体育館

開北クラブ 橋本 静子

八月も最後の日曜日、静岡市の長田体育館において第一回県シニア大会が開かれました。台風近しの雨の中をもとせ集まったメンバー八十名、各地域の精鋭? であります。

抽籤によって即席チームが誕生、四チームずつのリーグ戦開始、さすが熟女ばかり、とてもインスタントとは思えないほどのチームワークの良さ、年の功ですねえ。

試合の内容も一試合ごとに白熱化して、場内は熱気ムンムン、しかし心とはうらはらにおみ足の動きはスローにブギウギで珍プレー続出、それがまたとても楽しいのであります。勝敗にこだわらず、親睦第一に楽しさ一ばいのムードに盛り上げたこの企画、大成功でしたね。お帰りにはお土産までついているのですから。

至れり尽くせりのおもてなしに、出場者一同ルンルン気分で帰途に着きました。皆さんこれに味を始めて来年も、とお考えでしょう。出場希望者がワンサと増えて、役員さんは運営に嬉しい悲鳴をあげるんじゃないかな。年に一度お祭りの大会が開かれる、素晴らしい前進です。熟女の皆さま、これを機会に地域にお帰りになっても、出来る限りバレーボールをプレーヤーとして頑張ります。また一段と連盟の輪が広がるというものです。

役員さん方、大変御苦労さまでした。細かい

ところまでの心配り、同好者の一人として感謝申し上げます。

連盟の益々の御発展をお祈り致します。

下田球友会 山下千与子

若い人達は、応援に行くとはりきっている。私達のチームには、四十五歳以上が九名いるので一チームは出来る。最初は、チームの対抗試合が出来ると思っていたので、若い人達と練習試合をおもにした。

大会要項のチーム編成は、他チームとの混合であるとわかったが、「きつと、いっしょにやらせてくれるよ」と練習を続けた。

前日、私達五名は、滝本さんの家に泊めてもらうため出かけた。夜は曾根田さんをふくめ、バレーの話に花が咲いた。全国大会のビデオを見せてもらいながら、もう一度挑戦しようと思った。

次の朝、向敷地のチームの人に会場まで送ってもらおう。シニア大会!! 私も今年五十歳になった。もうそろそろ引退した方がいいのだろうか? チームの人に迷惑をかけているのではないだろうか...と、いろいろ自分なりに、やんでいた。チームの平均年齢を上げるばかり。でもシニア大会があるということなので、年齢を気にしないでバレーを続けることができる。

開会式に、橋本さんが、みんなにダンスをおどりながら教えた。そのリズム感のよさにおど

ろいた。私も負けてはいられないと、つくづく思った。組わけカードを引いたら黄色チームだった。自己紹介で名前はずぐわすれてしまうけれど、同じ年代ということで、なんとなく安心してプレーが出来る。また組わけがうまく出来たので、ラリーも続き楽しかった。最後に特別に下田球友会のメンバーで試合をさせてもらった。

帰りの電車は「楽しかった」「よかったね」の連発。いつもベンチにいる人も選手になって、精一ばいバレーが出来たと喜んでいた。レギュラーからおりてもシニア大会がある。これからも、一生懸命練習しよう。

球友会クラブ 北村 睦子

ことのほか、暑い夏の続いた今年、特に、長田体育館でのシニア大会は、外の台風をも吹き飛ばすくらいの熱い大会でした。

初めての県で開催されたこの大会に、私もその年にして参加してみました。県内各地から集まったメンバーを見て、何かホッとした気分でのプレーでした。

参加者全員での抽選もわくわくしました。初めての仲間との気楽なプレーは、ときには昔のバレーが出たりして、参加者全員がイキイキと楽しんだように思えました。こんな大会が年に一度はあっても良いと思います。

今、私は球友会チームの一員として、バレー

に加わっています。厳しい勝負の大会もそれなりに技術を高め、大いに自分を磨くことが出来ますが、それを忘れて、初めての人達と仲間になり、お腹の中から笑えて、楽しめる、このような大会は、別な意味での本当のレクリエーションの楽しい集まりとして、県内の人達とプレーを通して、和気藹々の中でお付き合いが出来たことは、すばらしいことだと思います。この企画をたてて下さった連盟の皆様に感謝し、又、多くの仲間とお逢い出来ることを期待したいと思います。

磐田クラブ 栗倉千枝子

月日の流れは早いものです。連盟も、十五歳の誕生日を迎えられました。多難な道のりを幾多乗り越え成長された連盟はまさに、ボールを愛する一人ひとりの財産でしょう。

「あれ、〇〇さんではないですか」「御無沙汰していますか、お元気ですか」と、懐かしい声を掛けられたり、「もう子供さんも……」「孫が」と開場に聞こえるなごやかな雰囲気は、戦いに挑む戦士ではなく、久しぶりに会った友達と和気あいあい、バレーボールがとりもつ仲間の絆、気兼ねなく話し合える喜び本当によかったです。

久しぶりに持ったボールの感覚は、久しぶりに味わう感激でした。

これも偏に役員の皆様方の計らいと感謝すると共に、二回、三回と多くのチームが参加が出来る大会に発展しますように、応援したいものです。



さわやか杯「特別賞」を戴いて

毎年協賛して下さる富士コカ・コーラ・ポトリング御様より、参加選手の最高齢者に「特別賞」として記念ボールの授与があり、本年度はメイトの高山あさ江さん(54)に与えられました。生涯スポーツとして頑張っている高山さんから届いた記事です。

雨の降りしきる中を草薙の体育館に向かった。思えば何年振りだろうか。県に登録して初出場で、初優勝。あの時の無欲で戦った優勝の感動は今でも忘れることは出来ない。その後、県の壁は厚く、低迷を続けているが、今回はさわやか杯で特別賞を戴けるといふ知らせに心ときめかせながら、久しぶりに見る各チームの熱戦も楽しみにしていた。

会場の中は若さ一杯の選手達と、家族ぐるみの応援の姿と共に、テレビ放映のビデオ撮りの仕度に忙しいカメラマンがチラホラ……、見ているだけでも、ジワジワと興奮して来るのを覚えるながら、自分のチームがこの会場にこられなかったもどかしさと、素晴らしいプレーの数々に見惚れていた。

参加する度に思うことは、選手層が各チーム若くなり、技術の向上もさることながら、家族の温かい理解のもとに、こんなに多くの婦人が一杯好きにバレーで汗を流す幸せを大切にしなければと思っている。

学生時代球技をやったことがなかった私が、PTAバレーをきっかけに、二十数年……あつという間の年月だった。

最初のメンバーはどうとう私のみになってしまったが、団体プレーの難しさ、そして楽しさ、協調性と思いやりの数々を学んだことが人生の大きな収穫だと思っている。

又若い娘達の、私が喜んでくれるプレーをしようね、そんな言葉を耳にした時、胸がジーンと熱くなり、バレーバカで良かったと思う。言いたいことを言いながら若いメンバーと一緒に年齢を忘れ、夢中になる自分に少し恥ずかしさもあるが、人生のバレーは年齢ではないと言いつけて聞かせている。

そんな私が大勢の中から特別賞を戴けるとは夢にも思っていなかったが、閉会式で記念ボールを手にした時、緊張しながらも、肩の力が一度に抜け頭を何度も下げたのを覚えていた。そして皆さん本当にありがとう、と心から大声で叫びたかった。

時計は五時になるうとしていた。ガタガタと帰り仕度に急ぐ足音と共に、電話ボックスの前では、家に電話をかける若いお母さん、「お父さん、今終わったの、ごめんなさい。すぐ帰ります。」主婦業に戻る一瞬である。今日は私にとって忘れることの出来ない素晴らしい一日となった。

大会役員の皆様のご苦勞に感謝しつつ、サイン入りのボールを胸にだき、一段と激しくなった雨足の中を家路に急いだ。



熱くそして
優しく

第20回全国家庭婦人バレーボール大会盛大に開催

〔期日〕平成元年七月二十七日、三十日、〔会場〕駒沢体育館他

派遣審判員としての報告

山田 弘子

全国大会も回を重ね、今年は二十回の記念大会となりました。メイン会場の駒沢体育館に各県の代表チームが集い、盛大にそしてにぎやかに開会式が行われました。

選手層も年々若返りが感じられるとともに、長身のママさん達が人目をひく大会でもありました。

全国からの派遣審判員の私達十八名は、開会式前日に、日本協会審判部の瀬藤先生によるクリニックを受けるため、駒沢体育館に集結いたしました。

そこでは挨拶もそこそこに主審、副審、記録のそれぞれの実技において、詳細なチェックを受けるに及びました。

初対面の主審、副審がア・ウンとはなかなかいきませんしミスも当然許されません。お互いに一生懸命なのですが、思わぬところで行き違いが生じ、瀬藤先生のポルテージが急上昇することしばしばでした。

県によっては審判上の解釈を異にする辺りも見受けられ、それぞれが妥協を許さない部分もあり、思わぬハプニングも生じましたが、何とか全員初日をクリアいたしました。

このクリニックは何時もの講習会とは違い、細部にわたる厳しいチェックであり、大袈裟に感じられるかもしれませんが、十八名の審判員が鍋をけずり合う場でもありました。

開会式の翌日からグループ戦が始まりました。この試合は各チームから審判員が出て行う親善試合です。吹笛はしたがシグナルは忘れ、どちらにサイドを示すのか迷っている審判員もいれば、自分達の試合の合間に同一キャプテンが二試合を立派に吹き、汗を拭う間もなく頑張っている情景にも出会い、親善試合もまた大変な勉強だったことと思えました。

私達は大会の前日に集合したその日から、毎日、日程終了後に関係者を交えてミーティングを行い、その日の反省、感想など一人ずつ報告し合い、意見交換の場といたしました。

審判員それぞれがそれ相応の勉強をし、経験を積んできていることは勿論、プライドをもってその場に臨んでいることしかりで、ここが思わぬ戦略の場と化し、圧倒されることたびたびでした。

三日目のミーティングでは、それぞれに次のような宿題が提示されました。それは「貴方は主審をつとめる時、または副審、記録、線審の時、それぞれの審判員に対し何を願いますか」というものでした。

早速とりかかってみますと意外に多いのに気

付き、皆で顔を見合わせた程でした。そして、この宿題が私達のこの大会での審判活動に対する見事な牽制球だったと思えました。

連盟の中で、曾根田審判長が「審判をつとめたその一試合の中に、何もなかった」と言うことはあり得ない」と常に口にされる言葉ですが、意志の疎通に関する部分も、その多くの比重を占めることは否めないと思います。

また、この暑い最中の大会では、予期せぬ突発的な出来事など格好の勉強材料も多く、審判員同志も言葉ではなく、心と体のコミュニケーションの必要を痛感いたしました。

そして、それらの一つ一つの問題点を、他の審判員と共に解決していきながら、大きな大会での仕事は、いろいろな角度から、大変よい勉強をさせていたいただくことができました。

派遣させていただくにつぎまして、ご指導とご理解を賜りました中西理事長、曾根田審判長に心から感謝を申しあげ、報告とさせていただきます。



第20回記念大会出場の感激

●掛川飛翔クラブ●

監督 榛葉悠紀子

主将 津川美津恵

ウイニングボールが相手のコートに落ちた時、
「ヒョータンからコマ」ということわざが頭に
浮かびました。昨年暮、永い間チームの世話を
していた方がご主人の退職に伴い他県へ
転出するとの話を聞き、必ず東京へ行くと約束
した日から半年足らず、初挑戦で出場出来る
は夢にも思っていなかったからです。

綾部会長、中西理事長はじめ連盟役員の方々、
協会の諸先生方の御指導、御協力を得て大会ま
での一ヶ月余、練習に準備にと夢中で過しま
した。駒沢体育館を目の前にしてやっと全国大
会という実感がして来たような訳です。

華やかな開会式、たのしかった交歓会、胸の
痛くなるような息詰まる熱戦等、暑い東京での
三日間でしたが、全国のママサンバレー愛好者
と接して今までにない経験をし、多くを学ぶこ
とが出来ました。

私達にこんなに素晴らしい思い出を作って下
さった大会本部の皆様、県家庭婦人連盟の方々、
又陰に日向に応援と協力をしてくれた家族に心
よりお礼申し上げます。

マネージャー 戸塚美代子

全国大会に出場して、視野が広がりバレーボ
ールをより深く理解することが出来、今まで以
上にバレーボールが好きになりました。

審判台に上った事も自分に自信が付き、これ
からの試合にも役立つ事と思います。

一つのボールを十二人で追いました。一生に
一度の全国大会。楽しかったり、苦しかったり
……燃えつきまりました。

BR 大橋とし子

大きな大会に参加出来たこと、光栄に思いま
す。一勝した時のみんなの涙、生涯忘れないで
しょう。

FL 鈴木美保子

一度予選に出てみようかと、初めての大会で
思い掛けない全国大会出場、とてもラッキーで
した。この大会を通して精神力の大切さを改め
て知らされました。

一人ひとりの気持が充実し一つになった時、
技術以上の力が発揮できること、又、その反対
の時の無残さ、自分の力、チームの力を一試合
一試合出し切ることの難しさ。

この経験を踏まえて、これからのバレー人生
に活かして行きたいと思っています。

HR 窪田 桂子

全国大会出場が決まった時、こまんなな……と
いう思いがありました。家族の協力と理解で
出場することができ、感謝しています。

大会は、さすが全国大会と思わせるようなチ
ームばかりでした。その中で一勝することがで
き、良い思い出になりました。

BL 小沢美恵子

全国大会に出場させて頂き、素晴らしい思い

出を作る事が出来ました。今でも試合直前の緊
張感、熱気は十分思い出すことが出来ます。

今回、私は、パワフルな家庭婦人のバレーに
驚き、精神力が本当に大切であるということ
を教えて頂きました。人間の持っている隠された
力を見ることが出来感動しました。

BR 木村 信枝

「うれし涙」と「悔し涙」のとても素晴らし
い一ページが出来ました。

FR 中村まち子

嬉し涙と悔し涙を体験しました。

この涙を忘れず、練習に励んで行きます。

HC 山崎多鶴子

あのプレッシャーと自分との闘い、感動は一
生忘れることはないと思います。

BC 瀧美 朋子

一勝できたあの時の感動は、最高でした。

学生気分に戻ってバレーができ、タイムスリ
ップしたようでした。

FC 中村美代子

バレーに親しんで二十年になります。

今年、家庭婦人にとって夢であり最大の目標
だった全国大会に出場でき、感謝の気持で一杯
です。

残念ながら二回戦で負けましたが、私にとっ
て最高の思い出となりました。

今までに身につけたすべてを、この一戦に出
し切った満足感を味わいました。

お世話して下さった皆様には心から感謝しま
す。よい思い出をありがとうございました。



★日本のママさんバレー

ばんざい

ユニオンクラブ 鈴木ベルタ

主人が仕事で私の国のメキシコで働いている時に知り合い、国際結婚で日本に来ました。

ご近所の皆さんにとっても親切にしていただいていますが、私にとってママさんバレーの仲間が日本での先生です。子供の友達のお母さんから、ママさんバレーというものがあるからと教えられ、すぐに参加しました。もちろんメキシコにはなかったのですが、子供がいてもこんな風に楽しく生活している日本のお母さん達は素晴らしいと思いました。

私はママさんバレーでバレーの技術以上に、皆さんから近所のこと、日本独特の感覚など多くのことを教えていただきました。全国大会は、やはり一つの夢ですが、皆さんと一緒にバレーをすること自体がとても楽しみです。出来る限り参加するようにしていますし、練習の二時間はアツという間に過ぎてしまい、とても短く感じます。

主人も私がママさんバレーをやっていることを喜んでくれ、試合時には応援に来てくれます。後でサーブはこうした方がいいとかアドバイスをしてくれ、二人でよくバレーの話もします。

バレーを始めたことで、大勢の友達もでき、日本のこともいろいろ覚えることが出来て、私にとっては本当にいい経験となっています。



★さわやか杯

県大会で思うこと

鬼馬クラブ 森下 波香

さわやか杯県大会に初めて参加して、まず初めに驚いたのは、選手の人たちの背の高さです。私も、一六三センチメートルもあって、中学・高校とチームの中では一番大きかったのですが、ここへ来て、皆家庭のおかあさんだというのに、その体格の良さにはびっくりしてしまいました。それもそのはず、私の頭の中で描いていた

「楽しみながらやるママさんバレー」とはほど遠く、皆背の高さだけでなく、技術的にもとても優れていて、とてもン歳と思えない程の身のこなしと、アタックを打つ時のパワーには目を見はるものがあり、さすがは県大会だと、見るものすべてが驚きの連続でした。

さて、自分たちの試合はと申しますと、元来、「緊張」という言葉を知らない私は、それら諸々に驚きを感じながらも、一回戦、二回戦と練習通りのプレーができ、勝てたことに大変満足しています。

決勝戦は、いつもあまり練習をしていない形で試合をすすめたので、皆がチグハグになってしまい、「このままじゃだめ」「何とかしなくちゃ」と思っているうちにズルズルと点を取られ、あっけなく終わってしまい少々悔いが残りました。

それもこれも経験だということで、これからもチーム全員と監督、コーチが一体となって、練習方法、試合の運び方などをよく話し合っ大会に臨みたいと思えました。まだまだすべてにおいて経験不足の私であり、

我がチームであります。これからも若さと元気を売り物に、ハツラツとした思い切りのよいプレーを心掛け、少しでも早くAブロックのチームと戦えることを夢みて、日々の練習に励んでいきたいと思っています。



★全国大会県予選に参加して

五和クラブ 梅原 順子

「どうする」「ついていけるかねー」こんな会話が昨年末から練習日に交わされた。県登録についてです。登録が切間近になって、とにかく、やってみよう!! ということになったわけです。

そして、五月二十一日、初めての大会が今回の試合でした。参加可能者九人ぎりぎり、不安はいっぱいでしたが、幸い(?)に会場到着が早く、役員の皆様と一緒に会場準備をさせていただきました。ながら、いろいろなお話をさせてもらい、全員なんとなくリラククスして試合に臨めました。

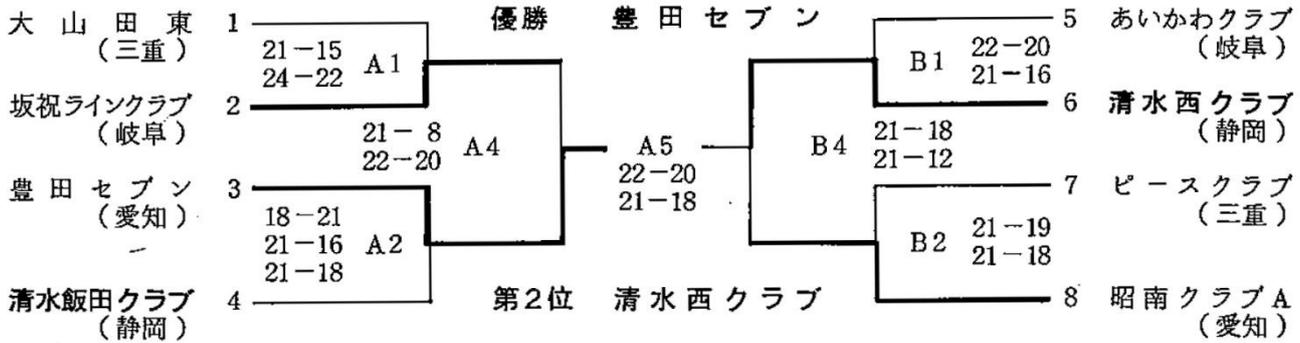
その結果、思いもよらず県大会への出場権を手にする事ができました。又、閉会式では、中西理事長より、五和クラブの名前を呼んでいただき、励ましの言葉に本当に感激致しました。

今後、できる限り多くの試合に参加し、そこでの経験を練習に生かして、他チームに追いついていきたいと思っています。フェアプレーの精神で、一步一步前進です。

第16回 東海家庭婦人バレーボール大会

平成元年10月22日(日)
浜松市体育館

組 合 せ



親 善 試 合

A 1 敗 者
大山田東

A 2 敗 者
清水飯田クラブ

21-15
21-19 A3

B3 21-18
21-12

B 1 敗 者
あいかわクラブ

B 2 敗 者
ピースクラブ

この大会の本県開催に当り、連盟審判員の研修会にモデルチームとして協力して下さいました多くの皆さんや、大会当日、連盟役員と共に運営に協力して下さいました西部地区のチームの三十名の方々に、心よりお礼を申し上げます。

準優勝を果たした清水西クラブは、一回戦、二回戦と実によく打ち、よく拾いボールをつなげて戦いましたが、決勝戦はここ一点を取るといふ追いこみの迫力があつた豊田セブンに勝ちを譲ってしまつたけれど、よい思い出づくりができたと思います。

前衛、中衛、後衛それぞれ自分のポジションを忠実に守り、コート内の九人とベンチとのチームワークよく試合をし、一回戦で惜敗した清水飯田クラブではありますが、決勝戦と思えるような息づまる好試合でした。

毎年のことながら、東海大会のレベルは高く、特に愛知県が強さは群を抜いております。両チーム共、優勝の豊田セブンに接戦の末に破れましたが、試合内容は見ごたえある素晴らしいものでした。

清水西クラブ 準優勝果たす

♥ 新しい仲間です どうぞよろしく!! ♥

私達チームは結成して一年半です。家庭連に加入するのはまだ早いのですが、力だめしのつもりで仲間入りさせて頂きました。

メンバーは、町内各地区にある町の家婦連加入チームに各自所属し、なおかつこのグリーンズに加入していますので、町内の大会があつたり町家婦連からの要請で町代表として郡の大会等に出ることもありますので、なかなか県の大会に出場するチャンスがありません。(日程が重なつたり、毎週続いたりすると、やはり無理ですね。)

練習も各地区のチームと重なつたりで、フルメンバーが揃うこともあまりなく、思うように練習もできませんが、みんなバレー好きなのは誰にも負けないと思つています。その気持をバネに、これからの大会へ一つでも多く参加して一勝することをめざし頑張りたいと思つています。

これからもあまり顔を合わせるチャンスもないかもしれませんが、お茶どころ中川根の混成チーム「中川根グリーンズ」をよろしくお願ひします。新茶の香りのようにさわやかに、味のあるチームをめざして頑張ります。(中川根グリーンズ一同)

平成元年度 県大会成績結果

月日	大会名	1位	2位	3位	位	
4/30	真田杯	Aグループ	清水西クラブ	清水シースカイA	清水飯田クラブ	栄クラブ
		Bグループ	いなさクラブ	二俣クラブ	湖西スマイルクラブ	千代田クラブ
		Cグループ	曳馬クラブ	小笠クイーンズ	青島東クラブ	向敷地クラブB
6/11	全国大会県予選	掛川飛翔クラブ	三島中央婦人学級	静岡南クラブ	下田球友会	
6/25	東海大会県予選	清水飯田クラブ	清水西クラブ	竜洋クラブ	長泉クラブ	
9/3	さわやか杯 県大会	Aグループ	清水飯田クラブ	栄クラブ	函南クラブ	二俣クラブ
		Bグループ	掛川飛翔クラブ	大洲球友クラブ	香貫クラブ	松風クラブ
		Cグループ	清水シースカイB	曳馬クラブ	清水クラブ	アタック
10/29	県選手権大会	清水飯田クラブ	清水西クラブ	岩松クラブ	栄クラブ	

平成元年度 当連盟に対し厚いご支援を下された 共催・後援・協賛各社

- 真田杯…… ㈱サッポロビール
- さわやか杯…… ㈱富士コカ・コーラ・ボトリング・㈱テレビ静岡
- 全国家庭婦人バレーボール大会県予選…… 朝日新聞社・ポーラ化粧品本舗
㈱住友海上火災保険・けんみんテレビ
- 県選手権大会…… けんみんテレビ・㈱マキヤ



ありがとうございました

連盟だより 第10号

原稿募集

当連盟の声の広場、連盟だよりも皆さんに育てられて平成二年度は第10号発行になります。

毎号、それぞれの立場の方々から記事を寄せていただき編集しております。創刊号から第9号をなつかしく読んでみますと、連盟の歴史が感じられ、また、家庭生活の中におけるさまざまの出来事も思い出したりしました。

本年度の行事も残り少なくなりましたが、連盟ではもう来年度にむけての作業が始まっております。

編集後記

連盟だよりも、皆様方のご協力により第9号の運びとなりました。チームの皆様が親しんでいただきける連盟だよりにしたと願いながら、ことしも編集いたしました。

今回は新設された「シニア大会」を中心として全国大会で活躍された掛川飛翔クラブ、全国派遣審判員として参加した山田さん他、数多くの方々のご協力により第9号

みなさんと共に充実した連盟づくりをしていることが、連盟だよりの中から伺えるような第10号にしたいと願っております。

常々思っている事、チームのこぼれ話、コント等、何でも結構です。ご投稿を期待しています。

▼切日 平成二年八月三十一日
▼送り先 連盟事務局長
榛地房枝宛



ができ上がりました。どなたの文を読ませていただいてもよいものばかりで、皆さま方もチームの方々と話し合い何か得るところがありましたら吸収してみたいかがでしょうか。

バレーが好きだからと集まった人達の和を大切に、自分を磨き、チームの和を広げ、交流の広場として連盟だよりも育てていただきたいと思えます。

(榛地)